

# 大津町 70th 広報紙で振り返る大津町

昭和61年  
↓  
平成27年

昭和31年（1956年）8月1日、1町5村（旧大津町、旧護川村「一部」、旧平真城村、旧陣内村、旧瀬田村「一部」、旧錦野村「一部」）が一つになり、現在の大津町が誕生しました。そして、その新しい町の歩みとともに発行されてきたのが町の広報紙です。

先月号に引き続き、過去の広報紙から大津町70年の軌跡を振り返ります。第二回となる今回は、昭和61年から平成27年までの30年間の軌跡です。工業団地の開発や交通網の整備、そして新たな憩いの場の誕生などによってインフラが充実し、現在の大津町の基盤が確立されていった様子をお届けします。

昭和61年からの平成27年の主な出来事			
元号	西暦	月	出来事
昭和61年	1986年	3月	大津保育園落成
		11月	阿蘇北部広域農道(ミルクロード)開通
昭和63年	1988年	3月	都市公園「昭和園」完成
		6月	熊本中核工業団地着工
平成元年	1989年	3月	大津町浄化センター完成
		4月	大津公共下水道一部供用開始
		4月	消費税開始
平成2年	1990年	3月	給食センター完成
		4月	大津小、室小落成式
平成4年	1992年	3月	高尾野公園完成
		9月	人口25,000人を突破
平成6年	1994年	1月	ごみ収集指定袋制スタート
平成7年	1995年	1月	阪神淡路大震災発生
平成10年	1998年	4月	大津北中学校が開校
		7月	町運動公園スポーツの森大津完成
平成11年	1999年	10月	豊肥本線熊本～肥後大津間電化
平成15年	2003年	2月	おおづ図書館オープン
平成17年	2005年	12月	江藤家住宅、国の重要文化財に指定
平成19年	2007年	12月	町の人口が30,000人を突破
平成23年	2011年	3月	東日本大震災発生
平成24年	2012年	4月	大津町まちづくり交流センターオープン
		4月	大津町歴史文化伝承館オープン
平成25年	2013年	3月	美咲野小学校落成式
平成27年	2015年	1月	水源かん養林「100年の森」森林整備協定



▲平成23年(2011年)6月号  
**伝統工芸の継承「梅の造花」が町指定無形民俗文化財に**

江戸時代から受け継がれてきた大津町の伝統工芸「梅の造花」が、町の無形民俗文化財に指定されました。梅の古木に台湾産の通草紙で作った花をあしらうこの精巧な造り花は、かつて参勤交代の土産品としても喜ばれた大津の誇りです。現在も「肥後大津民芸造花保存会」の皆さんの手によって受け継がれ、町の歴史と文化を未来へ繋ぐ貴重な財産となっています。

平成23年(2011年)



▲平成15年(2003年)2月号  
**「おおづ図書館」オープン**

平成15年2月、町の文化・教育活動の充実を目指し「おおづ図書館」が開館しました。誰もが気軽に本に親しみ、学びや交流を深めることができる施設として整備されました。開館に合わせてブックスタート事業や移動図書館の運行も開始。町民の皆さんの身近な場所に活字文化や生涯学習の場が整ったことは、大津町の文化的な歩みを支える大きな節目となりました。

平成15年(2003年)



▲平成10年(1998年)8月号  
**町運動公園「スポーツの森・大津」オープン**

阿蘇外輪山を望む広大な敷地にオープンしました。各種競技施設や芝生広場が整備され、スポーツ大会の開催はもちろん、町民が気軽にジョギングや軽スポーツを楽しむ場所として親しまれています。現在ではプロの試合や全国規模の大会も開催されるなど、町のスポーツ振興と健康づくりの中心的な施設として機能しています。

平成10年(1998年)



▲平成2年(1990年)1月号  
**産業の新たな拠点「熊本中核工業団地」の分譲開始**

県のテクノポリス計画の中核として整備が進められた「熊本中核工業団地」。平成2年の造成完了と分譲開始を機に、先端技術産業の集積が本格化しました。古くから根付く農業に加えて新たな産業の柱が生まれたこの出来事は、町の経済を大きく飛躍させ、今日の「元気な大津町」を支える強力な基盤となりました。

平成2年(1990年)

平成23年(2011年)  
東日本大震災

平成14年(2002年)  
日韓W杯

平成10年(1998年)  
長野冬季五輪開催

平成5年(1993年)  
Jリーグ開幕

平成3年(1991年)  
雲仙普賢岳火砕流発生  
台風19号県内各地に被害

昭和64年/平成元年(1989年)  
新元号「平成」へ

平成19年(2007年)

平成11年(1999年)

平成7年(1995年)

昭和63年(1988年)



▲平成20年(2008年)1月号  
**人口3万人突破**

工業の発展や宅地開発、インフラ整備を背景に、町は順調に発展を続け、ついに平成19年に人口3万人を突破しました。当時の広報紙では、3万人目の町民となったご家族への記念品贈呈式の様子が笑顔とともに紹介され、町全体でこの大きな節目を祝いました。



▲平成11年(1999年)8月号  
**交通インフラの大きな飛躍「JR豊肥本線の電化」**

平成11年10月に JR 豊肥本線（熊本～肥後大津間）が電化され、熊本市へのアクセスが飛躍的に向上しました。広報紙の表紙でも、電化に向けて試験運転をする真新しい赤い電車が鮮やかに表紙を飾り、まちのインフラの躍進を強く印象付けました。



▲平成7年(1995年)9月号  
**海を越えた絆「ヘイスティングズ市との姉妹都市盟約」**

平成7年7月、アメリカ・ネブラスカ州のヘイスティングズ市と姉妹都市盟約を締結しました。広報紙では、調印式の様子や訪問団の交流が華やかに報じられ、町民の国際化への関心が高まりました。町の国際交流における一つの大きな転換点となり、以来、多くの町民や子どもたちが海を越えて海外の文化に触れる機会が生まれるきっかけとなりました。



▲昭和63年(1988年)6月号  
**町民の新たな憩いの場「昭和園」の完成**

公募によって名付けられたこの公園は、豊かな自然に囲まれた憩いの広場として誕生しました。かつては「大津つつじ祭り」のメイン会場として賑わい、今も町の花「つつじ」の名所として世を超えて親しまれています。現在は親子の交流・相談を担う「子育て支援の拠点」へと整備が進んでおり、令和10年4月には認定こども園も開園予定。次世代を支える場として、さらなる進化を遂げます。

次号は、平成28年以降

広報紙から30年を振り返って

昭和31年からの30年間で、道路や公共施設など暮らしを支える基盤整備の時代だったとすれば、今回振り返った昭和61年からの30年間は、町民の暮らしや心の豊かさを育む時代だったのではないのでしょうか。

文化施設や憩いの場の整備、新たな交流の広がりなど、町は大きな変化を重ねながら現在の姿へとつながっていききました。

その歩みを伝えてきた広報紙もまた、時代とともに少しずつ変化しています。紙面のデザインや写真表現、掲載内容の移り変わりには、その時代の空気感や、そこで暮らす人々の日常が映し出されています。

次号では、平成28年以降の歩みを振り返ります。